

あいち病害虫情報 最新情報

令和6年9月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

向こう1か月の気温は高い見込み

名古屋地方気象台9月12日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。また、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

トビイロウンカ（水稻）

8月下旬の巡回調査において、トビイロウンカの発生は確認されませんでした。予察灯においては7月2日に長久手市で誘殺が確認されています。近隣県では、三重県ではこれまでに複数地点の予察灯への誘殺が確認されており、静岡県では8月上中旬の本田調査で発生が確認されています。

トビイロウンカがほ場に定着している場合、第3世代幼虫の成長期である9月から10月にかけて坪枯れが発生する可能性があります。収穫が近いほ場で坪枯れや坪枯れの初期症状が確認された場合は、できるだけ早く収穫しましょう。トビイロウンカの防除適期は各世代の幼虫発生期となりますので、表に記載された時期を参考に防除を検討してください。

表 有効積算温度をもとに計算したトビイロウンカ幼虫の発生予測時期

飛来予測		愛西	名古屋	岡崎	豊橋	新城
6月28日	第3世代幼虫	9月23日 ～10月14日	9月21日 ～10月9日	9月20日 ～10月10日	9月10日 ～9月25日	9月19日 ～10月8日

各地のアメダス平均気温から予測（9月13日計算）。

9月12日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

ニカメイガ（水稻）

弥富市に設置している予察灯において、ニカメイガの誘殺が多い状況が続いています。幼虫による被害が出る可能性があるため、ほ場での発生状況に注意し、発生が目立つ場合は収穫前日数を考慮して防除を実施しましょう。また、本種は収穫後の刈り株や畦畔雑草で越冬します。収穫後は、刈り株の早期すき込みや畦畔の除草を実施しましょう。

もみ枯細菌病（水稻）

9月上旬の巡回調査において、もみ枯細菌病の発病株率が多い状況です。本病の主な感染源は保菌種子です。次年度への対策として、種子は無病ほ場から採種したものを使用しましょう。また、塩水選や種子消毒を徹底しましょう。

ダイズのチョウ目害虫の発生に注意！

西尾市、長久手市のダイズほ場に設置したフェロモントラップでは、ハスモンヨトウがやや多く誘殺されています。8月下旬の巡回調査では、ハスモンヨトウの寄生株率が過去10年間で最も多く、シロイチモジヨトウは前年と比較して多い状況でした。詳細は、9月2日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第8号（ハスモンヨトウ）」及び本日発表の「シロイチモジヨトウ情報第3号（ダイズ・野菜類等）」を参照してください。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は概ね平年並ですが、8月下旬の巡回調査において寄生株率が過去10年間で最も多い状況でした。本種は莢に食入し、子実も加害するため、今後の発生状況に注意しましょう。9月2日発表の「オオタバコガ情報第5号（ダイズ・キャベツ・キク等）」も参考にしてください。

ダイズの吸実性カメムシ

吸実性カメムシの発生量は8月下旬の巡回調査においてやや多い状況でした。向こう1か月の気温は高いと予想されており、本種の活動に好適な条件となる可能性があります。また、水稻収穫済みの水田から近隣のダイズほ場にミナミアオカメムシ等が移動する可能性があるため、子実肥大初期（開花30～40日後）に防除を行いましょう。詳細は9月2日発表の「吸実性カメムシ類情報第1号（ダイズ）」を参考にしてください。

果樹カメムシ類の発生に注意！！

果樹カメムシ類の9月上旬の予察灯及びフェロモントラップにおける誘殺数は多い状況です。ナシ、カキ園への飛来、果実への被害も確認されています。向こう1か月の気温は高いと予想され、今後も果樹カメムシ類が活発に活動し、果樹園への飛来が増加するおそれがあります。詳細は9月2日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第7号」を参照してください。

果樹の病害虫（果樹カメムシ類以外）

ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺数は一部地域で多い状況です。特に豊田市、西尾市では8月上旬から9月上旬の誘殺数の総数が過去10年で最も多い状況です。秋季はナシほ場への成虫の飛来が続くことがあります。今後収穫を迎えるほ場では収穫前日数に注意し、防除を検討しましょう。

ブドウべと病については、早期落葉および次作の越冬伝染源量を減らすため、収穫後にICボルドー48Qなどで秋季防除を実施しましょう。また、罹病落葉が次作の第一次伝染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょう。

モモせん孔細菌病については、病原菌が枝や落葉痕部の組織内で越冬し次作の伝染源になります。枝病斑の除去やICボルドー412などの農薬散布による収穫後の秋季防除を実施しましょう。

野菜類、花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガに注意！！

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガについては、9月上旬の巡回調査におけるキャベツほ場での幼虫の寄生株率は平年並の状況です。フェロモントラップによる誘殺数は8月第6半旬に急増したものの、9月第1～2半旬にかけて減少しました。大雨等の影響による一時的な減少と考えられます。しかし、一部ほ場ではハスモンヨトウやシロイチモジヨトウの卵塊や幼虫が確認されています。向こう1か月の予報では、気温は高く、降水量は多いと予想されていますが、これまでいずれの種も多い状況が続いていたことから、今後の発生状況には十分な注意が必要です。

防除対策については、9月2日発表の「令和6年度発生予察注意報第8号（ハスモンヨトウ）」及び「オオタバコガ情報第5号（ダイズ・キャベツ・キク等）」を参考にしてください。シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける成虫の直近1か月の総誘殺数はやや多めで推移しています。本日発表の「シロイチモジヨトウ情報第3号（ダイズ・野菜類等）」を参照してください。

ハイマダラノメイガのキャベツほ場での寄生株率は、9月上旬の巡回調査では平年並の

状況です。育苗中や定植直後に食害されると被害が大きくなるので、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

コナガのキャベツほ場での寄生株率は、9月上旬の巡回調査では平年並です。ほ場をよく観察して、早期発見に努め、防除しましょう。

アブラナ科野菜の細菌性病害

黒腐病、軟腐病等の細菌性病害は降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は、病原菌の侵入口となるので、激しい風雨によって傷ができた場合や、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。向こう1か月の降水量は多いと予想されており、また、近年局地的な豪雨が多くみられます。激しい風雨が予想される場合は、事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

イチゴ炭疽病

イチゴの炭疽病は、7月下旬の巡回調査の発生量は平年並でしたが、気温が高いと発生が助長されます。向こう1か月の気温は高いと予想されているため、注意しましょう。また、炭疽病は風雨で周辺に拡大するので、育苗ほでの発生がある場合は、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は症状が無くても同様に処分しましょう。定植には発病株や発病が疑われる株は絶対に使用しないようにしましょう。本ぽで発生を確認したら、速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

トマトキバガによるトマトへの被害に注意

トマトキバガによるトマトへの被害が県内でも確認されました（9月9日発表令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号）。他県では施設内での甚大な被害も確認されています。県内各所のフェロモントラップでは継続的に本虫が誘殺されており、注意が必要です。施設栽培では、まず施設に入れないことが重要です。防除対策等については、上記特殊報、トマトキバガ情報を参照してください。

トマト、ミニトマトの黄化葉巻病、黄化病

トマト、ミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類を防除するとともに、感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室 TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820
